徒然草 ・花は盛りに・

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段	第三段	第四段
花は〔①　　〕のときだけ、月は〔②　　〕のないのだけを味わうのではない。雨夜の月や花の〔①　　〕の前後にも趣深いものがある。	何事も、〔③　　〕と〔④　　〕が趣深い。恋も、逢えないつらさをしみじみと味わってこそ、本当の情趣が分かっていると言えよう。	月も、〔⑤　　〕よりも、木の間から見えたり、雲に隠れたりした月に情緒を感じるものである。	月も花も目だけで見るものではないはずだ。教養のある人は興じる姿もあっさりしているものだ。

重要語句 次の語句の意味を答えなさい。

(1) あはれなり

(2) をかし

(3) 契り

(4) かこつ

(5) いと

重要文法 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 傍線部の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

(1) 春の行方知らぬも（三六・3）

(2) 花見にまかれりけるに（三六・4〜5）

(3) ながめたるよりも（三六・13）

(4) 心あらん友（三七・2）

	意味	活用形
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

2 傍線部「に」を文法的に説明しなさい。

(1) 花は盛りに（三六・2）

(2) ひとへに逢ひ見る（三六・9〜10）

(3) 逢はでやみにし（三六・10）

3 傍線部の助動詞を活用させて、正しい活用形にしなさい。

(1) 咲きぬべしほどの梢（三六・3）

(2) 昔をしのぶこそ、色好むとは言はむ。（三六・11〜12）

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「見るものかは。」（三六・2）とあるが、作者は「花」と「月」についてどのように考えているか答えなさい。

2 次の文は、(a)「雨に向かひて月を恋ひ」（三六・2）と、(b)「垂れこめて春の行方知らぬ」（三六・2〜3）を説明したものである。空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

(a)…［A］が降るのを見ながら［B］を［C］の中で慕っている状態。

(b)…［D］を垂らして［E］の中に引き籠もって［F］を見ないでいる状態。

3 「咲きぬべきほどの梢、散りしをれたる庭などこそ、見どころ多けれ。」（三六・3〜4）と同じ趣旨を述べている一文を、**第二段**から抜き出しなさい。

4 「ひとへに逢ひ見る」（三六・9〜10）と対照的な状態を述べている部分はどこか。本文から**最初と最後の五字**（句読点を含む）を抜き出しなさい。

［　　］〜［　　］

5 「昔をしのぶ」（三六・11）の意味として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　昔の栄華を思い出す。　　イ　昔の家を思い出す。
ウ　昔の月や花を思い出す。　　エ　昔の恋人を思い出す。

［　　］

6 「心あらん友もがな」（三七・2）を現代語訳しなさい。

7 「都恋しうおぼゆれ。」（三七・3）について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 作者はどこに身を置いていると考えられるか答えなさい。

(2) ここから作者のどのような心情を読み取ることができるか。次の語句に続く形で説明しなさい。

椎柴や白樫などの葉が、月の光に照らされて濡れているようにきらめいているさまを見るにつけ、

8 「よき人」（三七・5）と、(a)同じ意味で用いられている語句と、(b)対照的な意味で用いられている語句を、第一〜第三段落の中からそれぞれ**一つ**抜き出しなさい。

(a)［　　］

(b)［　　］